

第 1 節 母子保健関連事業

1. 母子保健対策事業

(1) 未熟児訪問事業

母子保健法では、出生体重が2500g未満の乳児を低体重児としており、未熟児は生理的に未熟であり、疾病にもかかりやすいことから、同法第19条により訪問指導を行い、必要な処置を行った。

	管内計	桑名市			いなべ市				木曾岬町	東員町	
		桑名市	多度町	長島町	北勢町	員弁町	大安町	藤原町			
平成13年度	総数	189	115	7	12	11	9	14	5	3	13
	要訪問児(A)	46	30	3	1	5	1	-	1	1	4
	(A)%	24.3	26.0	42.8	8.3	45.4	11.1	-	20.0	33.3	30.7
	訪問実施件数(B)	90	63	-	1	5	3	8	4	1	5
	(B)%	47.6	54.7	-	8.3	45.4	33.3	57.1	80.0	33.3	38.4
平成14年度	総数	174	93	6	14	14	5	13	4	3	22
	要訪問児(A)	35	19	1	-	2	2	4	-	-	7
	(A)%	20.1	20.4	16.6	-	14.3	40.0	30.8	-	-	31.8
	訪問実施件数(B)	40	26	-	3	-	3	2	-	-	6
	(B)%	23.0	28.0	-	21.4	-	60.0	15.4	-	-	27.3
平成15年度	総数	164	101	9	12	8	4	11	2	4	13
	要訪問児(A)	30	13	-	-	4	-	5	-	1	7
	(A)%	18.3	12.9	-	-	50	-	45.5	-	25	53.8
	訪問実施件数(B)	47	34	-	-	2	2	3	-	-	5
	(B)%	28.7	33.7	-	-	25	50	27.3	-	-	38.5
平成16年度	総数	151	66	9	18	11	14	12	-	4	17
	要訪問児(A)	30	11	3	5	2	1	3	-	1	4
	(A)%	19.9	16.7	33.3	27.8	18.2	7.1	25.0	-	25.0	23.5
	訪問実施件数(B)	38	16	4	4	-	1	1	7	3	2
	(B)%	25.2	24.2	44.4	22.2	-	7.1	8.3		75.0	11.8

注：要訪問児 出生時体重が2000g以下の児
 ()について A・Bは総数に対する比率
 訪問実施件数は、実件数。

(2) 健やか親子支援事業

事業の目的

心身の発達に問題を抱える子ども及び養育問題を持つ保護者とその子どもに対して、必要とする支援内容を明確化にし、状況に応じた適切な助言・指導を行い、養育問題の負担軽減を図る。また関係機関との調整を図ることにより、地域で安心して生活できるよう支援する。

実施内容

(ア) 面接相談

小児慢性特定疾患等の医療費給付申請時に面接を行い、保健師活動のPRを行うとともに家族の抱える問題点の把握を行った。相談は長期療養児・手術が必要な児の保護者からが多く、特に小児慢性特定疾患・育成医療等の医療費の補助に関する内容のものが多かった。

また、育児全般の相談を受け付けているが、心身の発達に問題を抱える子どもを持つ保護者だけでなく、関係者からの相談も多い状況にある。そのため、不安等を持った保護者が多くの関係機関に相談でき、地域で孤立しないよう、今後も関係機関への支援を行っていききたい。

(イ) 家庭訪問

従来から行っている未熟児訪問については、今後も管内市町や医療機関等の関係機関と連携しながら行っていききたい。

また、児童相談に直接保健師が関わることで、心身の発達に問題を抱える子ども及び保護者に関わる機会が増えた。面接相談後等、個別フォローが必要であるケースへの支援の充実を今後も行っていききたい。

	妊産婦	乳児	幼児	未熟児	その他
実件数	1	5	6	38	-
延件数	1	5	11	77	-

(ウ) 研修会・関係機関連絡会議

児童虐待への相談件数の増加と共に、養育に問題を持つ保護者からの相談への対応、関係機関との連携が一層必要とされてきている。そこで、子どもに関わる関係者を対象とした研修会を開催した。

虐待の早期発見・予防のために、個別ケースを通しての支援の方向性の検討を行い、今後も関係機関との連携を深めていききたい。

日時	場所	対象	講師・内容
16年 11月30日	桑名庁舎	相談業務にたずさわる者	参加者：17人 講師：岐阜県東濃こども相談センター 石田 公一 氏 テーマ：性的虐待へのかかわり
17年 2月17日	木曾岬町 ふれあい ホール	保育所・学校関係者、民生員、保健福祉関係者	参加者：69人 講師：名古屋市児童福祉センター 牧 真吉 氏 テーマ：児童虐待の影響を受けている子どもへの対応

考察及び課題

個別のケースを通しての関係者との連携は深まりつつあるが、必要とされる支援に対して充分に対応できていない。また、関係者自身がケース・保護者への対応に困難を感じることも多いため、連携を深めるだけでなく、支援者がよりよい支援を行うための研修会の機会が必要である。

2. 母子医療対策事業

(1) 育成医療

身体障害児にとっては、早期発見・早期治療はきわめて重要である。このため、児童福祉法第20条により、18歳未満の児童で、このまま放置すれば将来日常生活にかなりの支障を残すと見られる障害を有しているが、手術をすることで確実な治療効果の期待できるものに対し、医療給付を行っている。

	総計	肢体不自由	視覚障害	聴覚・平衡障害	機能障害	音声言語障害	先天性心臓障害	腎臓障害	その他の障害の内
平成13年度	102	14	15	4	30	14	1	24	
平成14年度	120	13	12	3	37	22	1	32	
平成15年度	121	16	16	7	28	20	2	32	
平成16年度	151	24	26	2	35	24	2	38	

平成16年度内訳

桑名市	桑名市	88	18	14	1	16	16	1	22
	多度町	8	1	1	-	-	2	-	4
長島町	12	1	3	-	3	1	-	4	
いなべ市	21	4	5	1	4	2	-	5	
木曾岬町	4	-	1	-	3	-	-	-	
東員町	18	-	2	-	9	3	1	3	

(2) 養育医療

母子保健法第20条により、身体の発育が未熟のまま出生し、正常児が出生時に有する諸機能を得るに至っていないため、入院養育が必要と認められる1歳未満の乳児に対し、医療給付を行っている。

	総計	桑名市			いなべ市	木曾岬町	東員町
		桑名市	多度町	長島町			
平成12年度	48	32	1	1	9	3	2
平成13年度	54	35	2	2	9	2	4
平成14年度	36	18	-	2	8	-	8
平成15年度	37	19	-	-	8	2	8
平成16年度	30	17	1	2	4	1	5

(3) 小児慢性特定疾患治療研究事業

小児慢性疾患のうち特定疾患については、治療が長期にわたるため、医療費の負担が高額となる。

これを放置することは、児童の健全な育成を阻害することとなるため、小児慢性特定疾患の治療研究事業を行い、もってその研究を推進し、その医療の確立と普及を図り、併せて患者家庭の医療費の負担軽減を図る。

疾患別	市町別	総計	桑名市			いなべ市	木曾岬町	東員町
			桑名市	多度町	長島町			
平成13年度		159	83	5	13	33	7	18
平成14年度		174	94	6	13	36	6	19
平成15年度		194	113	7	13	36	5	20
平成16年度		199	137	1	2	33	5	21
16年度内訳	悪性新生物	51	29	1	1	10	2	8
	慢性腎疾患	13	8	-	-	5	-	-
	ぜんそく	1	1	-	-	-	-	-
	慢性心疾患	2	1	-	-	-	1	-
	内分泌疾患	98	74	-	-	13	1	10
	膠原病	4	2	-	-	1	1	-
	糖尿病	6	4	-	-	1	-	1
	先天性代謝異常	12	10	-	-	1	-	1
	血友病等血液疾患	12	8	-	1	2	-	1
	神経・筋疾患	-	-	-	-	-	-	-

(4) 特定不妊治療費助成事業

不妊治療のうち、体外受精及び顕微受精（以下「特定不妊治療」という）については、1回の治療費が高額であり、経済的負担が重いことから、十分な治療が受けられず、望んでいるにも関わらず子どもに恵まれない方も少なくない。このことにより、平成16年度から特定不妊治療に要する費用の一部を助成し、経済的負担の軽減を図った。

	実件数
平成16年度	41件

第2節 精神保健福祉対策事業

1. 精神障害者地域生活支援事業

(1) 精神障害者保健福祉手帳交付事業

	年度末 人 員	級 別 内 訳			
		1 級	2 級	3 級	
平成14年度	384	85	256	43	
平成15年度	457	87	320	50	
平成16年度	568	108	403	57	
平成 16 度 内 訳	桑名市	408	74	298	36
	いなべ市	92	19	62	11
	木曽岬町	16	1	13	2
	東員町	52	14	30	8

(2) 精神障害者保健福祉相談指導事業

在宅の精神障害者及びその家族に対し、社会復帰の促進や自立と社会参加の促進のための相談を行った。

区分 年度	面接件数		訪問件数		電話件数
	実人員	延人員	実人員	延人員	延件数
平成14年度	94	182	52	128	1,324
平成15年度	98	201	49	89	1,026
平成16年度	98	142	42	63	819

2. 精神障害者社会復帰推進事業

(1) 精神障害者社会参加支援事業

ア. 生活訓練（デイケア）

在宅の精神障害者の生活自立を目指し、社会復帰を促進するために活動を行った。

区分	月別	総数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
平成14年度		315	25	24	26	30	37	22	23	26	36	23	36	9
平成15年度		275	15	30	32	18	33	20	29	23	20	20	12	23
平成16年度		327	37	22	23	36	24	20	22	19	49	26	20	29

年度	内訳	回数	参加	事業結果		
				社会復帰	中断	継続
平成14年度		25	30	2	2	26
平成15年度		27	21	1	1	19
平成16年度		27	19	1	-	18

イ．フリースペース（ホワイトルーム）

在宅精神障害者が自由に集い、過ごせる場所を提供し、精神障害者同士の交流を図った。

開催回数：週2回 年89回

参加者数：延べ 743名

ウ．啓発広報

精神保健福祉講座（ボランティア養成講座）

目的：精神障害者に対する誤解や社会的偏見を是正し、精神障害者の社会復帰及び社会参加に対する地域住民の関心と理解を深める。

開催回数：1クール 7回 年1クール開催

参加者数：延べ 131名

内容：精神保健福祉に関する講義・体験実習等

エ．地域支援ネットワークづくり

精神保健福祉担当者研修会

目的：精神保健福祉に関わる関係者の資質の向上を図るとともに各機関の役割について学ぶことで支援ネットワークの充実を図る。

実施年月日：平成17年1月13日

対象：精神保健福祉関係職員

参加者数：104名

内容：講演会

テーマ「人格障害へのかかわりについて」～支援で燃えつきないために～

講師 三重県こころの健康センター 医師 臼井 卓士 先生

精神保健福祉業務連絡会議：月1回（年12回）

定期的な連絡会議を開催し精神保健福祉に関わる関係機関との連携強化を図った。

精神保健福祉ボランティアへの支援

精神障害者の支援体制整備のため NPO（精神保健福祉ボランティア）との協働体制の強化に努めた。

・精神保健福祉ボランティア定例会への参加：月1回

・精神保健福祉ボランティア主催の精神障害者サロン（月1回）への技術支援

（2）精神障害者共同（小規模）作業所運営費補助事業

在宅精神障害者に対し、集団による作業訓練及び生活指導等を行い、その社会復帰、社会参加の促進及び精神障害者の社会的自立と福祉の向上を図る共同（小規模）作業所に対し経費を支弁する市町村に補助を行った。

	補助作業所数	補助金 千円
平成14年度	1	3,643
平成15年度	1	3,643
平成16年度	1	3,643
作業所名	ワークルーム桑友（桑名市）	

(3) 精神障害者社会復帰施設運営費補助金

精神障害者社会復帰施設を運営する者に対し、その運営に要する経費の一部を補助することにより、精神障害者の地域社会における社会適応訓練の場を確保し、社会復帰の促進を図った。

年 度	金 額 千円	補 助 事 業 者
平成 14 年度	37,533	医療法人北勢会 生活訓練施設「あじさい」
	20,544	医療法人北勢会 地域生活支援センター「アジサイ」
	19,119	医療法人北勢会 福祉ホームB型「てまり花」
	19,119	医療法人康誠会 福祉ホームB型「TOUIN」
	(1人・12月) 1,120.440	社会福祉法人晴山会 知的障害者通所授産施設 「バンブーハウス」(授産施設相互利用)
平成 15 年度	38,212	医療法人北勢会 生活訓練施設「あじさい」
	22,266	医療法人北勢会 地域生活支援センター「アジサイ」
	19,006	医療法人北勢会 福祉ホームB型「てまり花」
	19,006	医療法人康誠会 福祉ホームB型「TOUIN」
	(1人・12月) 1,102.800	社会福祉法人晴山会 知的障害者通所授産施設 「バンブーハウス」(授産施設相互利用)
平成 16 年度	38,000	医療法人北勢会 生活訓練施設「あじさい」
	22,028	医療法人北勢会 地域生活支援センター「アジサイ」
	18,807	医療法人北勢会 福祉ホームB型「てまり花」
	18,807	医療法人康誠会 福祉ホームB型「TOUIN」
	(1人・12月) 1,102.800	社会福祉法人晴山会 知的障害者通所授産施設 「バンブーハウス」(授産施設相互利用)

(4) 精神障害者通院患者リハビリテーション事業

精神障害者を一定期間事業所に通わせ、集中力、対人能力、仕事に対する持久力、環境適応能力等の涵養を図るための社会適応訓練を行い再発防止と社会的自立を促進し、もって精神障害者の社会復帰を図った。

年 度	奨励金(千円)	協 力 事 業 所	(訓練人数・月数・人数)
平成 15 年度	594	(有) フジタ	(1人・12月・298日)
	206	(株) 瀬古製作所	(1人・9月・103日)
	158	(有) 加藤商店	(1人・8月・79日)
	438	(有) ちなみ鍍金工業所	(1人・12月・219日)
	100	(有) イワタ	(1人・6月・50日)
平成 16 年度	450	(有) フジタ	(1人・9月・225日)
	242	(株) 瀬古製作所	(1人・12月・121日)
	147	(有) 加藤商店	(1人・12月・73.5日)
	480	(有) ちなみ鍍金工業所	(1人・12月・240日)
	12	(有) イワタ	(1人・2月・6日)
	52	(株) 金星堂	(1人・2月・26日)
-	桑名工業(株)	(1人・0月・0日)	

3 . 精神保健医療対策事業

(1) 通院医療費公費負担事務

(審査月別申請件数)

	合 計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成 14 年度	802	67	60	72	50	38	59	47	92	70	59	83	105
平成 15 年度	1,150	116	145	78	79	97	100	93	37	137	74	61	133
平成 16 年度	1,138	101	91	104	82	56	94	90	68	134	136	98	84

(年度末人員数)

市 町 名	平成 1 4 年度	平成 1 5 年度	平成 1 6 年度
桑 名 市	7 6 8	9 0 3	1、3 4 3
(多度町)	6 2	5 3	
(長島町)	1 1 8	1 3 2	
木曾岬町	5 3	6 1	6 7
いなべ市		3 5 3	4 1 4
(北勢町)	1 0 5		
(員弁町)	5 2		
(大安町)	1 0 6		
(藤原町)	5 8		
東 員 町	1 2 8	1 8 2	2 3 2
合 計	1, 3 1 8	1, 7 0 1	2, 0 5 6

(2) 精神保健措置事業

年度	区分	申 請・通 報 件 数				指定医診察結果		保護申請に基づく調査によ り			
		計	法 23 条	24 条	25 条	法 26 条の 2	法 29 条 該 当	29 条 非該当	他の福祉 施設	指定医診 察不要	そ の 他
平成 14 年度		5	1	4	-	-	4	1	-	-	-
平成 15 年度		6	-	6	-	-	4	2	-	-	-
平成 16 年度		4	-	4	-	-	3	1	-	-	-

(3) 疾患別措置入院者の状況

(H17 年 3 月 31 日現在)

疾患別	総 数	統 合 失 調 症	そ う う つ 病	心 因 反 応	非 精 定 神 型 病	て ん か ん	知 的 障 害	神 経 衰 弱	ア ル コ ー ル	性 精 神 病	そ の 他
市町別											
総 計	男	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-
	女	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	計	3	1	1	-	-	-	-	-	1	-

第3節 難病対策関係事業

1. 難病在宅ケア事業

(1) 事業の目的

難病患者及び家族に対し、医療と日常生活にかかる相談、指導、助言を行うことで疾病や療養などに対する不安の軽減を図り、QOL(生活の質)の向上につなげる。

(2) 対策の選定理由

難病は原因不明、予後不良の疾患であり、患者及び家族におよぼす精神的・身体的経済的負担が大きく、在宅ケアにおいて様々な問題を引き起こしている。在宅難病患者が地域で安心して暮らしていけるよう患者・家族の交流、専門医や関係機関等との連携を図り基盤整備をしていく。

(3) 事業の内容

在宅療養支援計画策定・評価事業

在宅難病患者は病気の進行状況により、介護保険や福祉のサービスを変更をしていく必要がある。訪問後はケアマネージャーや訪問看護ステーションなど関係機関と連絡をとり、情報交換を行い支援の方向性を確認していった。

医療相談

患者・家族の療養上の不安・悩みを解消し、当事者同志の交流を図ることで、QOL(生活の質)の向上を目指すことを目的に実施した。

[神経難病医療相談]

実施年月日：平成16年10月7日

対象者：特定疾患受給者

(多発性硬化症、重症筋無力症、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、パーキンソン病関連疾患)

内容：個別相談

医療相談、リハビリ相談

参加者：患者3名、家族7名、関係者1名

新規面接の充実

保健師が在席中は新規申請者の面接を行い生活支援・指導をした。特に神経難病患者は初回訪問基準票を用い家庭訪問につなげた。

平成16年度新規申請状況 110件 (重症 10件)

家庭訪問の充実

筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、パーキンソン病関連疾患等の神経難病重症患者を中心に継続訪問を実施した。新規申請者については訪問により早期に福祉サービスにつなげ患者のQOL(生活の質)の向上を図った。

平成16年度訪問実数 延べ41件

QOL教室

患者同士が集い、交流会を行なうことで、閉じこもりを防ぎ患者の生活拡大を促進しQOLの向上を図るためパーキンソン関連疾患患者・家族交流会を開催した。

その他、四日市・鈴鹿保健福祉部と合同で潰瘍性大腸炎・クローン病・網膜色素変性症患者・家族交流会を実施した。交流会では盛んな情報交換が行われた。

1．パーキンソン病関連疾患患者交流会

平成16年	5月11日	ピクニック	参加者数	8名
平成16年	6月22日	リハビリ教室	参加者数	19名
平成16年	11月8日	茶話会	参加者数	11名
平成17年	3月8日	来年度の交流会について	参加者数	9名

2．潰瘍性大腸炎患者交流会

実施年月日：平成16年12月7日
対象者：特定疾患受給者
内容：「潰瘍性大腸炎患者の食事について」
交流会（グループワーク）
参加者（桑名管内のみ）：35名（11名）

3．クローン病患者交流会

実施年月日：平成16年12月14日
対象者：特定疾患受給者
内容：「クローン病患者の食事について」
交流会（グループワーク）
参加者（桑名管内のみ）：12名（4名）

4．網膜色素変性症患者交流会

実施年月日：平成16年11月22日
対象者：特定疾患受給者
内容：福祉制度・便利グッズの紹介
交流会（グループワーク）
参加者（桑名管内のみ）：13名（2名）

関係者研修会

ケアマネージャー、ヘルパー、訪問看護師等、難病患者の関わっている職種は多く、関係者を対象に研修会を開催した。

実施年月日：平成17年1月17日
対象者：関係職員（市町保健福祉関係・社会福祉協議会・介護保険事業所関係職員・訪問看護ステーション）
内容：講演「介護保険時代に求められる難病患者への関わり」
～神経難病を中心とした支援について～
講師 大阪難病医療情報センター 医師
参加者（桑名管内のみ）：89名（15名）

2. 特定疾患治療研究事業

いわゆる難病のうち特定疾患は治療がきわめて困難であり、長期の療養を要し、かつ、その医療費も高額であるので、これらの患者の自己負担を軽減し、治療の促進を図ることを目的として医療給付を行っている。

疾患別	市 町	総 数	内 訳			
			桑 名 市	いなべ市	木曾岬町	東員町
平成16年度		836 (120)	512 (83)	208 (26)	27 (-)	89 (11)
1 ベーチェット病		29 (9)	16 (6)	12 (2)	-	1 (1)
2 多発性硬化症		20 (6)	8 (1)	7 (4)	-	5 (1)
3 重症筋無力症		15 (1)	7	3 (1)	3	2
4 全身性エリテマトーデス		77 (1)	51 (1)	13	3	10
5 スモン		1 (1)	1 (1)	-	-	-
6 再生不良性貧血		20	14	3	1	2
7 サルコイドーシス		17 (1)	8 (1)	5	-	4
8 筋萎縮性側索硬化症		8 (4)	5 (3)	3 (1)	-	-
9 強皮症、皮膚筋炎又は多発性筋炎		70 (1)	42 (1)	18	2	8
10 特発性血小板減少性紫斑病		31	17	11	2	1
11 結節性動脈周囲炎		5 (2)	5 (2)	-	-	-
12 潰瘍性大腸炎		149 (1)	92 (1)	34	7	16
13 大動脈炎症候群		5	4	-	-	1
14 ピュルガー病		5	2	2	1	-
15 天疱瘡		9	7	2	-	-
16 脊髄小脳変性症		22 (14)	13 (9)	5 (2)	-	4 (3)
17 クロウン病		38	31	7	-	-
18 難治性の肝炎のうち劇症肝炎		-	-	-	-	-
19 悪性関節リウマチ		12 (5)	8 (5)	3	-	1
20 パーキンソン病関連疾患		108 (33)	69 (25)	27 (8)	3	9
21 アミロイドーシス		1	1	-	-	-
22 後縦靭帯骨化症		48 (12)	20 (6)	21 (5)	-	7 (1)
23 ハンチントン舞踏病		1 (1)	1 (1)	-	-	-
24 ウィルス動脈輪閉塞症		17 (1)	12	3	-	2 (1)
25 ウェゲナー肉芽腫症		2 (1)	1 (1)	-	-	1
26 特発性拡張型(うっ血型)心筋症		22 (1)	11 (1)	8	-	3
27 多系統萎縮症		16 (9)	10 (5)	3 (1)	-	3 (3)
28 表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)		1	1	-	-	-
29 膿疱性乾癬		3	1	1	-	1
30 広範脊柱管狭窄症		5 (1)	3	2 (1)	-	-
31 原発性胆汁性肝硬変		21 (1)	15 (1)	4	1	1
32 重症急性膵炎		-	-	-	-	-
33 特発性大腿骨骨頭壊死症		11	8	1	1	1
34 混合性結合組織病		7	2	2	1	2
35 原発性免疫不全症候群		-	-	-	-	-
36 特発性間質性肺炎		7 (7)	6 (6)	-	-	1 (1)
37 網膜色素変性症		30 (7)	18 (6)	8 (1)	2	2
38 プリオン病		-	-	-	-	-
39 原発性肺高血圧症		2	1	-	-	1
40 神経線維腫症		-	-	-	-	-
41 亜急性硬化性全脳炎		-	-	-	-	-
42 バット・キアリ症候群		1	1	-	-	-
43 突発性慢性肺血栓塞栓症		-	-	-	-	-
44 ライツゾーム病(ファブリ 病含む)		-	-	-	-	-
45 副腎白質ジストロフィー		-	-	-	-	-

(())の数字は重症者数